

〔課題演習報告〕

学級集団の問題解決力を育てる生徒指導の研究 —選択理論の考え方を活かしたクラスミーティングを通して—

大 久 保 泰 成

Taisei OKUBO

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース
(2017年1月6日受理)

近年の日本の学校現場では学級がうまく機能しない状況が問題となり、学級集団づくりや人間関係づくりが難しくなっている。そこで、本研究は学級における人間関係に関する問題を解決志向による問題解決ができる児童の育成をめざす。特別活動の授業や朝の活動の時間を活用したクラスミーティングを取り入れることで、学級をよくしていこうとする児童の意識を高め、個や集団の自己実現に関する社会的な問題の解決ができる児童の育成に取り組み、その成果と課題を明らかにした。

キーワード：社会的な問題解決力、クラスミーティング、選択理論、自己評価、解決志向

1 はじめに

(1) 主題設定の理由

近年の学校では「学級がうまく機能しない状況」が問題となっている。全国連合小学校長会(2006)の報告によると、いわゆる学級崩壊の状態にある学級は小学校の8.9%に上ったと深刻な状況であることを伝えている。このように、小学校で学級集団づくりや人間関係づくりが難しくなっている状況がある。小学校学習指導要領解説特別活動編(2008)では、そのような困難な状況を引き起こす背景として、「近年、都市化、少子高齢化、地域社会における人間関係の希薄化などが進む中で、家庭や地域社会において社会性を身に付ける機会が減少している。また、情報化の進展により、間接体験や擬似体験が膨らむ一方、望ましい人間関係を築く力などの社会性が身につけにくくなっている」と述べている。このような背景がある中、これまで以上に学校で望ましい集団や人間関係を育てることが必要になってくる。小学校学習指導要領解説特別活動編では「学級活動の目標として望ましい人間関係を形成しようとする態度を育てること」を述べている。しかし、先ほど述べた学級集団づくりが困難な学校の状況では、これまでもまして、新たな視点に立った学級集団づくりや短時間で取り組める方法の開発が望まれている。

(2) 学級集団の問題解決力の育成

望ましい学級集団をつくるためには、その形成者である個や集団が日々、学級内で生じる様々な

問題を解決志向に立って解決していく力を育てることが重要である。本研究では、そのような個や集団を育てるために、アメリカの精神科医ウィリアムグラッサーの選択理論の考え方(願望実現ができていないから人は様々な問題行動を取る。または人は誰も「価値のある存在でありたい」「愛し愛されたい」という願望を持っている。その願望の実現の方法を本人自ら選択し実行していく中で、真の自己実現が可能になるという考え方)を基盤にする。また、児童に社会的な問題解決力を育成する方法として、先のウィリアムグラッサーと同様に、アドラー心理学に基づく「クラスミーティング」がある。さらに、Jane Nelsen&HStephen Glenn Lynn Lott (2000)は「人々は共同体感覚を生まれながらに持っているわけではありません。それは教育、トレーニング、実践によって身につけていくのです」と述べる一つの方法として、クラスミーティングを紹介している。このように共同体感覚を身につけることで、学級の結束力は強くなり集団での問題解決力を育てることができると考える。

2 先行研究

(1) クラスミーティングとは

選択理論やアドラー心理学をもとにした学級経営の一技法である。互いのことを思いやりのある雰囲気の中で行うことで、互いに勇気づけ合ったり、助け合ったりすることを目指し、個人や学級生活に関わる問題を議題として提案し、一人一人が問題解決のアイデアを出し合う話し合い活動で

ある。クラスミーティングの特徴は、①友達の多様な考えを受容・共感して他者の意見を積極的に聴くスキルを身に付けること、②一人一人の課題やつまずき、学級の問題を気づかせ集団で解決する方法を考え実行することで学級全体の問題解決力を育てることである。クラスミーティングの中には、何を言っても否定されない受容的な雰囲気を作るコンプリメントや、アイスブレーキングという活動も含まれている。この活動はクラスミーティングを行う前に雰囲気を和ませたり、児童同士の関係を作ったりする効果がある。

(2) 先行実践 I

クラスミーティングの実践例の一つとして、四日市市教育委員会が小中学校に提示しているクラスミーティングの流れを表1に示す。

表1 クラスミーティングの流れ

過程	活動内容 (カッコ内は目安の時間)
①議題カードの提出	〇休み時間等に議題箱に議題カードを提出する。
②サークル作り	〇机を後ろに下げ、椅子で円を作り座る。(2～4分)
③コンプリメント (アイスブレーキング) 「ありがとうリング」	〇友達への感謝の言葉 (ありがとう) を簡潔に、1人ずつ発表していく。(5～7分)
④前回の振り返り	〇前回の議題提案者が、決定事項を一週間試行してみた結果を報告する。(3～4分)
⑤議題の提示	〇議題を読み上げ、議題提案者が話し合うかどうかを決める。(2～4分)
⑥解決策の話し合い	〇1人ずつ順番に解決のアイデアを出し合う。(8～10分)
⑦解決策の決定	〇議題提案者が最良と思う案を決定する。(2～4分)

※一つ目の議題が終わったら⑥へ戻る。一時間につきおよそ2つの議題について話し合う。

四日市市教育委員会の実践は、全部で8回のクラスミーティング行っている。クラスミーティングを行う前に事前アンケートを行い、第8回目まで行った後、事後アンケートを行った。事前アンケートと事後アンケートの結果を①自己受容、②学級への所属感、③学級への信頼感、④学級への貢献感の4つの観点から比較してみると以下の結果がわかった。

全てのアンケート項目を集計し、4を最もよいものとした4段階評価で評価した結果、平均を出してみると ①自己受容が 3.23 から 3.36、②学級への所属感が 3.32 から 3.55、③学級への信頼感が 3.06 から 3.24、④学級への貢献感が 3.04 から 3.41 となった。このように、全ての観点において数値が増加した。この結果よりクラスミーティングは、児童個人と学級に対して肯定的な効果をもたらすことができることがわかる。しかし、今回の取り組みは、①時間的制限や回数的制限がある

こと、②児童のニーズに応じた欲求を議題としてクラスミーティングで扱っていないため、児童の実態に沿った議題を取り扱っていないこと、③課題をあらかじめ教師が設定しているので児童の自発的な問題解決につながりにくいなどの3点が課題として残った。これらの課題を解決することで更なる効果を期待できると考える。

(2) 先行実践 II

福岡県内のクラスミーティング実践校として須恵町立須恵第一小学校の実践がある。実践校では、ミーティング部会を置いてよりよい人間関係づくりに目を向けた話し合いを行うようにした。日常的・継続的に行うためにエンカウンター、クラスミーティングを朝の活動 (いきいきタイム) を中心に実践してきた。成果としては、①自分たちのクラスをよりよくしたいという意識が高まった、②生活目標などの課題に対して全員で考えることができた、③自分たちの課題について、自分たちで解決策を考えるので、意欲的に実行することができたなどの3点の成果が示された。課題としては、話し合いで決定し、実行したことに対しての評価が不十分でより効果的な評価方法や振り返りの時間を定期的に確保することなどの工夫が求められる。

3 実践校 A の児童の実態

(1) 児童の学級に対する印象

対象：福岡県内公立小学校 A 小学校

第5学年1クラス16名

事前アンケートでは、「クラスをよくする方法を知りたいですか」に対し、70%が知りたいと答えている。また、「あなたのクラスの問題をみんなで解決することができますか」と対しては、とてもそう思うが36%、そう思うが43%と答えていて全体で79%の児童が肯定的な選択をしていた。

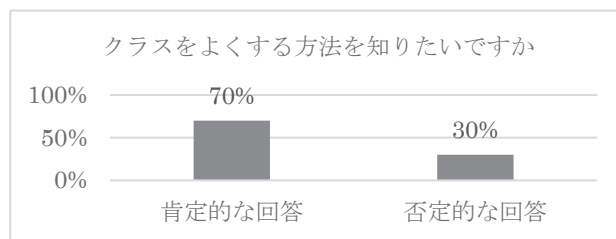


図1 事前アンケートの結果①

事前アンケートによると、「あなたのクラスは楽しいですか」という質問に関しては、100%の児童が肯定的な回答をしている。平成16年福岡県教育センターが実施した県内の小学生 (約1100人) への学校生活に関するアンケート調査結果では、同

じ質問に対して、肯定的に回答している児童は61%であり、比較してみると39%も上回っている。また、その他の人間関係に関するアンケートを県内の小学生と比較しても数値が高かった。

(2) 児童の学校生活への願いとつまずき

事前アンケートの結果を分析してみると、ほとんどの質問の回答は、肯定的な回答が、否定的な回答を上回っている。しかし、「発表することは好きですか」という質問に関して、否定的な回答をしている児童は72%と44%も肯定的な回答をしている児童の割合より上回っている。県内の小学生の割合の50%と比較してみても、発表することが好きな児童の割合は22%下回っていることがわかる。このことから、A小学校の児童は発表することに関して何らかの抵抗を感じているのではないかと考える。

さらに、「あなたは自分の苦手なことを含めて自分のことが好きですか」という質問に関しては、肯定的な回答をした児童が、50%と決して多いということとはできないことから、自尊感情も全体的に高い方ではないと捉えることができる。

4 クラスミーティングの試案

(1) 実践指導

i) 本研究の構想図

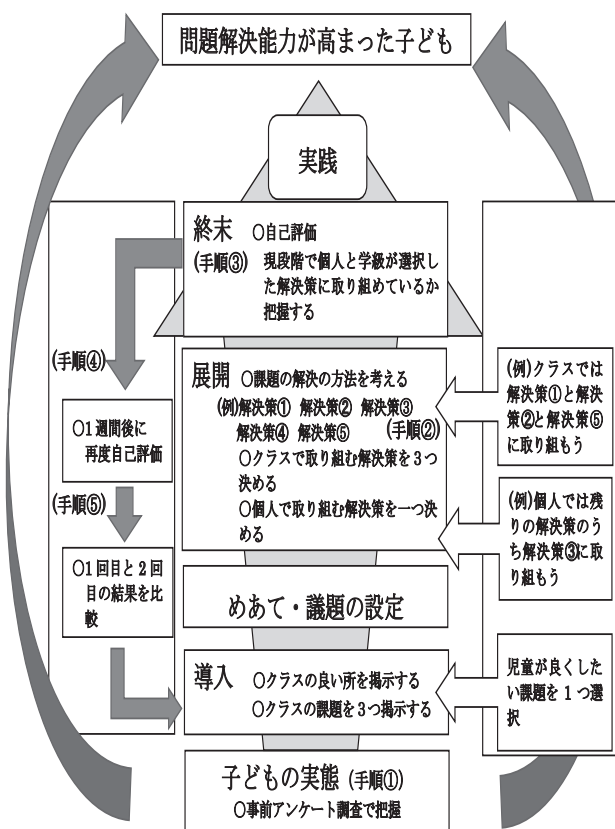


図2 本研究の構想図

ii) 指導の概要

<指導の流れ>

- 週に1回朝の会の時間を活用し、短時間(15分)で行う。
- ルールとして、友達の発言を否定しないこと、友達の話を遮らないことの2点は必ず守らせるようにする。
- 事前アンケートの結果を分析し、児童の実態にあった議題を設定する。(手順①)
- 議題を設定する際に、あらかじめ教師が3つほど課題を用意し、どの課題を解決するか児童に選択させる。(手順②)
- 振り返りシートを活用し、自己評価を行い、1週間でどれほど変化したか視覚化する。(手順③)
- 決めたルールや目標を1週間行ってみて、再度振り返りシートを使って自己評価する。(手順④)
- 話し合いの結果は、カードに書いて掲示するなどの工夫をし、毎日の生活で意識させる。
- 一つの課題を2週から3週行いルールや目標をより具体化する。(手順⑤)

iii) 振り返りシートの活用

振り返りシートを次の手順で活用し、自己評価につなげる。

- ① 1回目のクラスミーティングで決めた解決策に対して4を最もよいものとした4段階評価で自己評価をし、個人(あなた自身)と学級が現段階でどれほど決めた解決策を実践できているか把握する。
- ② 1週間後2回目の自己評価をし、個人と学級の達成度の平均を出す。(教師)
- ③ 2回目のクラスミーティングの時に、1回目と2回目の自己評価の結果を掲示し、結果を比較する。
- ④ 1週間後3回目の自己評価をし、個人と学級の達成度の平均を出す。(教師)
- ⑤ 3回目のクラスミーティングの時に、2回目と3回目の自己評価の結果を掲示し、結果を比較する。

iii) 検証資料

- ① 事前事後のアンケートの分析
- ② 振り返りシートの分析
- ③ 指導記録
- ④ 児童の生活態度の様子

以上の実践を行い、児童たちの問題解決力を高めることができるようにする。

5 研究実践 A

(1) A 小学校での実践

i) 議題の決定 (導入時)

A 小学校で実践をしてみると、アンケート調査の結果を基にして、「人間関係」、「掃除」、「授業の際の発表」の3つをもっとよくするためのクラスミーティングを行いたいということだった。そこで、この3つの調査の結果をまず児童に提示した。児童に最初のクラスミーティングで話したいことを調査すると「クラスでつらい思いをすることがあります(人間関係に関する内容)」という項目について多くの児童が解決したいと述べた。A 小学校では全部で3回のクラスミーティングを行った。

ii) 第1回クラスミーティング(2016年1月13日)

「つらい思いやさみしい思いをする友達をなくそう」というテーマで行った。児童から出た解決策として、表2に示すものがあげられた。結果としてすべての解決策を実践できるようになった児童が増えた。しかし、児童が出した解決策は抽象的な内容が多かったので、第2回クラスミーティングでは、誰もが取り組みやすくより具体的にした解決策の内容について話し合った。

表2 第1回クラスミーティングの結果(N=16)

「つらい思いやさみしい思いをする友達をなくそう」	クラスミーティング前	クラスミーティング後
人の気持ちになつていやなことをしない	11人	15人
寂しそうな人に声をかける	9人	15人
みんなで協力する	12人	15人

iii) 第2回クラスミーティング(2016年1月20日)

「つらい思いやさみしい思いをする友達をなくそう」という第1回と同じテーマで、話し合いを行った。児童が考えた新しい解決策としては、表3に示す解決策が決まった。結果は、全ての解決策において実践することができた児童の人数が増えた。話し合いで決めた解決策の内容をより具体的にすることで児童は取り組みやすくなることが、今回のクラスミーティングでわかった。

表3 第2回クラスミーティングの結果(N=16)

「つらい思いやさみしい思いをする友達をなくそう」	クラスミーティング前	クラスミーティング後
友達に「ありがとう」とお礼をいう	11人	16人
友達の喜ぶことを8回以上する	9人	16人
友達に話しかけ遊びに誘う	12人	15人

iv) 第3回クラスミーティング(2016年1月27日)

「学校で1番掃除ができるクラスになろう」というテーマで第3回から掃除に関するクラスミーティングを行った。解決策としては、表4に示すとおりである。結果は、全ての解決策で実践できた児童の人数が増えた。掃除の場面でも、協力して掃除をする児童が少しずつ増え、その様子を見ることができた。特によかったことは、以前より自分達で声を掛け合う場面を見ることができたことである。

表4 第3回クラスミーティングの結果(N=16)

「学校で1番掃除ができるクラスになろう」	クラスミーティング前	クラスミーティング後
だまって掃除をする	8人	13人
めんどくさがらずに掃除をする	9人	14人
時間になるまで掃除をする	11人	15人

v) 成果と課題

クラスミーティングをA小学校で行った結果、事後アンケートによると、「クラスミーティングは、学級をよりよいものにするために効果的だと思いますか。」(図3)という質問に対して16人全員が肯定的な回答をしている。また、児童のコメントを見てみても、「多くの児童がクラスミーティングにより学級が明るくなった。」「以前より、友達のよい行動が見られるようになった。」など、肯定的な内容を書く児童が多かった。a児(図4)やb児(図5)のコメントからも、児童がクラスミーティングに有効性があると感じていることがわかる。児童のコメントだけではなく、児童と日々接する中でも、学級をもっとよくしたいという思いをもちがんばっている児童の様子なども伺うことができた。以上の結果から、成果としてクラスミーティングは、児童たちの力で学級を高め、学級の課題を解決していくためにも有効であると考えられる。

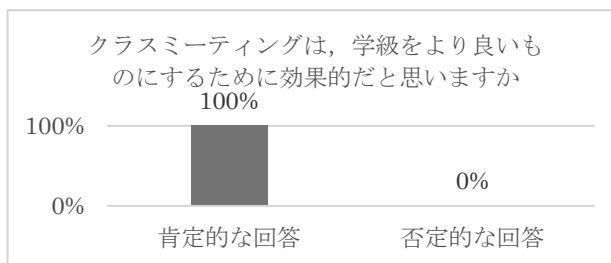


図3 事後アンケートの結果

1. クラスミーティングは、学級をより良いものにするために効果的だと思いますか。
 ④—とてもそう思う ③—そう思う ②—あまりそう思わない ①—そう思わない
 上のように思った理由を書いて下さい。

クラスミーティングという時間の中でめあてを定め、実行するという事はとても大切だと思いました。そしてそのめあてを定めるための時間はクラスの事を考えるいい機会だからです。

図4 a児のコメント

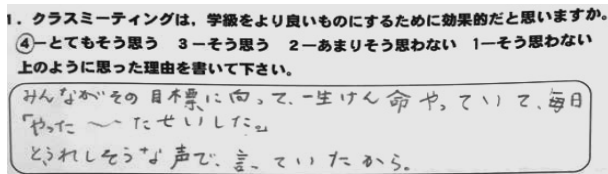


図5 b児のコメント

しかし、課題としては①児童の発達段階や実態に応じた指導法の解明、②児童が継続して決めたルールや目標を達成できるための手立ての考案、③時間の短縮と指導の効率化、④教師の継続的支援と指導の4つの課題が考えられる。これらの課題を次の小学校での実践に活かしたい。

6 実践校Bの児童の実態

(1) 児童の学級に対する印象

対象：福岡県内公立小学校 B小学校

第6学年 1クラス28名

事前アンケートの「クラスをよくする方法を知りたいですか」という項目(図6)に関して、43%の児童が否定的な回答をしている。また、「あなたはクラスの問題をみんなで解決することができると思いますか」という項目(図7)に関しては、36%の児童が否定的な回答をしている。これらの結果より、自分達でクラスの問題を解決することができないと思う児童が多いことから、学級の問題解決力に関して、自信をあまり持つことができていないと捉えることができる。人間関係に関しては、事前アンケート項目を見てみると、肯定的な意見を述べる児童が多い。学級の雰囲気も落ち着いていて、昼休みは、男女で遊ぶ姿もよく見られる。

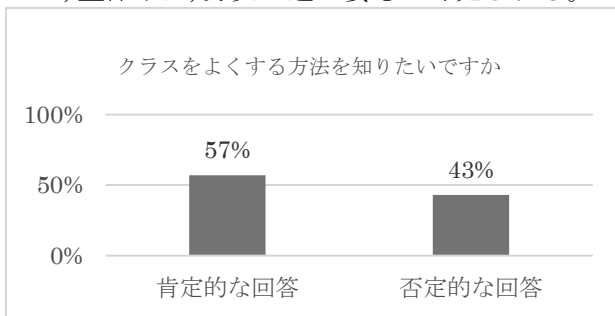


図6 事前アンケートの結果①

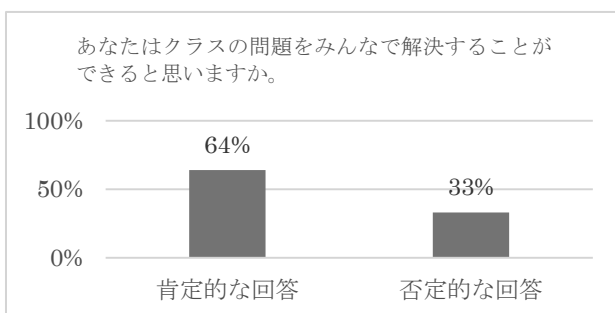


図7 事前アンケートの結果②

(2) 児童の学校生活への願いとつまずき

事前アンケートの「勉強が分かる努力をしていますか」というアンケート結果に関しては、福岡県の調査と同じであった。このことに関して学級担任も学力に関しては、改善したいと強く願っている。勉強をわからないままにする児童が多く、学習につまずきを感じている。授業中の様子としては、静かに教師の話の聞いているが、反応が薄かったり、発表を自発的にあまりしなかったりする児童が多い。宿題の提出状況はよく、自主学習に取り組んでいる。しかし、テストの結果を見ていると、学習した単元の基礎・基本が確実に身につけている児童が少ない。

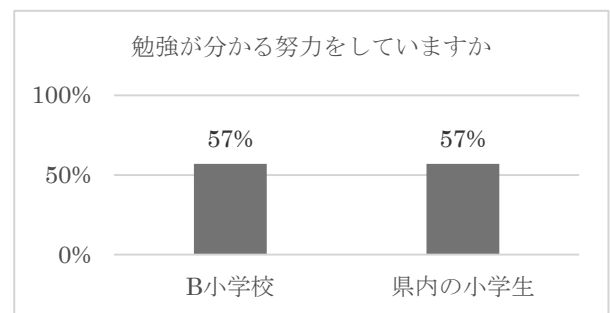


図8 事前アンケートの結果③(肯定的な回答)

7 研究実践2

(1) B小学校での実践I

i) 議題の決定(導入時)

B小学校で実践をしてみると、アンケート調査の結果を基に、「人間関係」、「掃除」、「学習に対する取り組み」の3つをもっとよくするためのクラスミーティングを行いたいという結果が出た。議題決定の際に人間関係に関する議題を解決したい子どもが多かった。1学期は、初めに「人間関係」、次に「学習に対する取り組み」をそれぞれ3週間ずつ行った。また、今回のクラスミーティングは、児童同士の人間関係をよりよくするための手だてとして、付箋を用いて互いのがんばりや、よいところを伝え合う活動を取り入れた。

ii) 第1回クラスミーティング(2016年6月8日)

「クラスのために貢献できる人になろう」というテーマで行った。今回のクラスミーティングで決めた解決策は表5に示す。2週目に、②の解決策が抽象的な内容だったので、児童たちが記入したワークシートのコメントを活用して、喜ぶこととは何か具体的に交流する時間を設けた。クラスミーティングを続けていると、全体を通して数値があがり、児童たちの振り返りシートを見てみると、

児童たちも手応えを感じていた。

表5 第1回クラスミーティングの結果 (N=28)

「クラスのために貢献できる人になろう」	1週目	2週目	3週目
友達のいいところをいっぱい言う	9人	24人	28人
友達が喜ぶことをする	18人	25人	25人
先生や友達の話を最後まで聞く	18人	26人	26人

iii) 第2回クラスミーティング(2016年7月1日)

「勉強をわからないままにしないようにしましょう」というテーマで行った。児童たちが考えて決めた解決策を表7に示す。2週目・3週目には、決めたルール必要性について考える時間にした。そのような時間を設けることにより、解決策に取り組む児童の意欲を高めることができた。3週間、勉強に関する議題を扱ってきて、肯定的な回答をする人数も徐々に増えてきた。また、放課後に残って勉強する児童や、教え合う様子、先生や友達に聞く様子、自学をがんばる児童が見られるようになった。

表6 第2回クラスミーティングの結果 (N=28)

「勉強をわからないままにしないようにしましょう」	1週目	2週目	3週目
先生や友達にわからないことを聞く	19人	25人	24人
分からない友達がいたら教えてあげる	20人	26人	25人
あいまいなことやわからないことを自学で復習する	12人	16人	17人

v) 成果と課題

第1回・第2回ともに話し合った取り組みに関して、肯定的な回答をする児童が多くなった。児童の行動も少しずつ変化していき、先生が毎日取り組ませている日記にも「学級の雰囲気が変わって、クラスが楽しくなった。」というコメントを書く児童が少数いた。事後アンケートの「学級をよりよいものにするために効果的だと思いますか」(図9)という項目に対して、27人中(1人欠席)、26人が肯定的な意見を述べており、最もよい評価を付けている児童は、23人という結果になった。また、「あなたはクラスの人のために役に立つことができますか。」(図10)の事前・事後アンケートを比較すると、肯定的な回答をする児童の割合が57%から71%に増加した。「あなたはクラスの問題をみんなで解決することができますか。」(図11)という項目に対しても、事前・事後アンケートを比較すると数値が高まっている。

これらの結果から、今回のクラスミーティングも有効であったと考えられる。さらに、友達のよい所や頑張っていることを付箋で伝え合う活動を行ったことで、多くの児童が友達のよさを見つけることができてよかったとコメントをしていた。

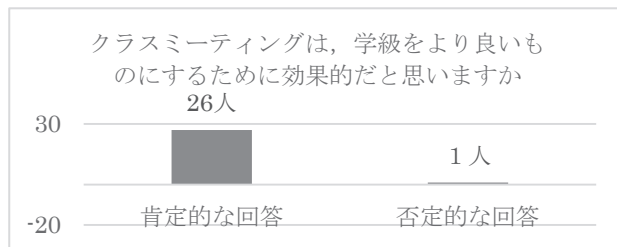


図9 事後アンケートの結果 (N=27)

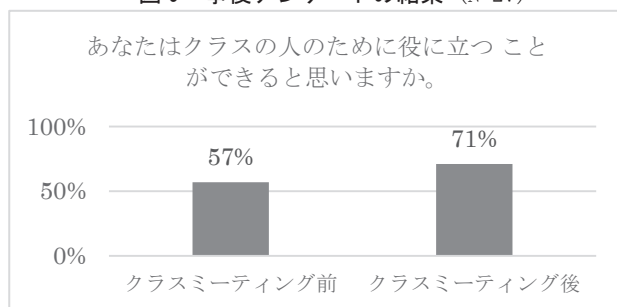


図10 事前・事後アンケートの比較①

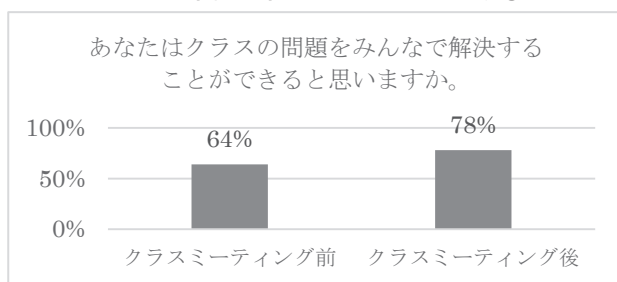


図11 事前・事後アンケートの比較②

課題は、児童の人間関係をよくするために行った付箋を渡す活動にあった。最初は効果的であったが、活動を行う期間が長かったため児童の意欲が低下してしまった。意欲の低下を防ぐために、同じ活動を一定期間だけ行うことや、別の活動を取り入れることをするなどの工夫が必要であった。また、より児童のニーズに近い議題をとり扱うために、アンケート調査を基に今後話し合う内容を決めてもよいと考える。

8 研究実践3

i) B小学校での実践II

B小学校での実践での課題を改善するためのクラスミーティングを2学期に行った。改善点としては、①話し合いの内容を児童が決めること、②全員で議題に対して解決策をより考えることができるようにするために話し合いの形態を輪になって

行うこと, ③児童が決めたことのモチベーションを保ち継続していくための取り組みを行うこと, ④振り返りを学級全体で行うことの4点を改善点として取り入れて実践を行った。

ii) 第3回クラスミーティング(2016年12月9日)「みんなが発表しやすいようにするためのルールを決めよう。」というテーマで行った。今回は、授業中の発表に関する課題を解決したいという児童が多かったのでクラスミーティングを実施した。クラスミーティングで児童が話し合った解決策としては、「まわりの人と多く意見交流をする」、「友達の発言を否定せず、友達が発表の時、間違えたらやさしく教え助ける。」の2つを学級のルールとした。今回、みんなのルールとして決まらなかったルールは、他のルールとして位置づけ児童の目に入るところにみんなのルールと共に掲示した。クラスミーティングで決めた解決策を実践できるようにエンカウンターや発表の匠という取り組みも並行して行ったため、児童で短期間で自分自身や友達の成長・変容に気づくことができた。

v) 成果と課題

成果としては、図12の事後アンケートと図13の児童のコメントから話し合いの形態を今回のクラスミーティングから輪になって取り組んだことのよさがわかる。事後アンケートに肯定的なコメントをする児童多く、議題解決に向けて全員が参加しやすくなり児童の課題意識を高めることができた。

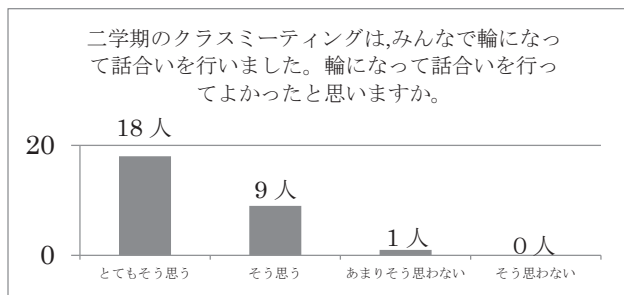


図12 事後アンケートの結果 (N=28)

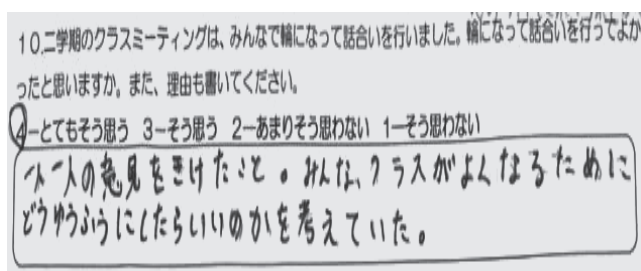


図13 事後アンケート (児童のコメント)

今回は、児童の意識を高めるためにエンカウンターや発表の匠といった取り組みを行ったため、普段発表しない児童が積極的に発表する姿が見ら

れ、事後アンケートにも児童が自分自身や友達の成長・変容を多く述べて賞賛していた。また、友達のよいところに目を向けることが以前よりできるようになっていて人間関係づくりに関しても肯定的なコメントが多くなっていた。

表7 事後アンケートの結果 (N=28)

あなたはクラスミーティングでの活動を通して友達のよさを見つけることができるようになりましたか	7月	12月
とてもそう思う	11人	18人
そう思う	14人	7人
あまりそう思わない	1人	2人
そう思わない	2人	1人

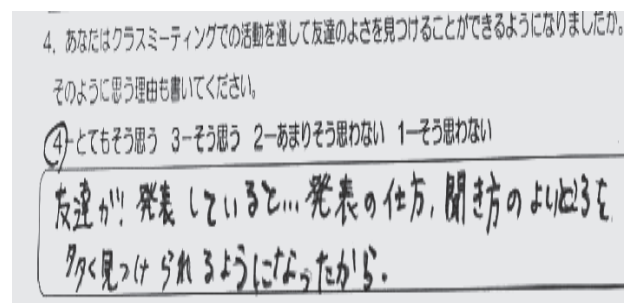


図14 事後アンケート (児童のコメント)

今回のクラスミーティングでは、振り返りに重点を置いて活動をした。日常生活の中での振り返りは以前と同様継続して行い、学級全体の振り返りをクラスミーティングの話し合いの形態と同じ輪になって朝の活動の時間に全体で交流を行った。従来は個人で振り返りをしていたが全体で振り返りを行うことにより友達の頑張りや反省点、自分では気付かなかったことを知ることができ意欲の向上に繋げることができた。今回の全体での振り返り活動に対して多くの児童が肯定的に捉えていると考えることができる。(図15, 16)

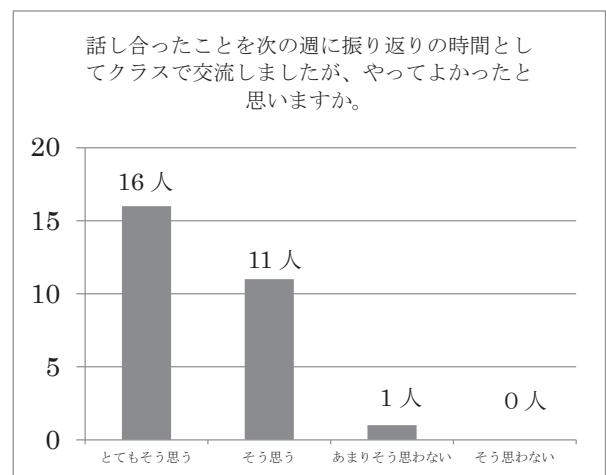


図15 事後アンケートの結果 (N=28)

12.話し合ったことを次の週に振り返りの時間としてクラスで交流しましたが、やってよかったと思いますか。また、理由も書いてください。

④—とてもそう思う 3—そう思う 2—あまりそう思わない 1—そう思わない

できたことできなかったことと交流して、次へ生かそうと思ったから

図 16 事後アンケート（児童のコメント）

5月から12月までの「あなたはクラスの問題をみんなで解決することができますか。」というアンケート項目の比較を図17に示している。クラスミーティングを継続して行っていくうちに徐々に学級の問題解決力に対する自信と信頼感が高まっているのがわかる。児童のコメントからは話し合いを行うことで問題を解決することができるという児童が多く、話し合いによる解決方法に対する関心が高まっているのがわかる。

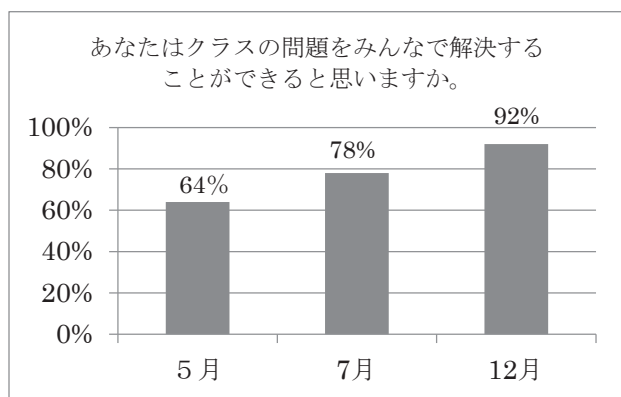


図 17 事前・事後アンケートの比較（肯定的な回答）

7. あなたはクラスの問題をみんなで解決することができますか。

また、そのように思う理由も書いてください。

④—とてもそう思う 3—そう思う 2—あまりそう思わない 1—そう思わない

クラスが一つにな、て意見を出しあうと解決できる、1人1人の意見や考え方がわかる。

図 18 事後アンケート（児童のコメント）

成果として①児童が話しやすいように話し合いの形態を工夫すること、②クラスミーティングで決めたことを実践できる場を与えることで児童がより意識して取り組むことができるようになること、③エンカウンターなどの取り組みを並行して行うことで個と個の繋がりを深め学級全体の雰囲気がよく話し合いやすくなること、④振り返りの時間を充実させ、個から全体へと広げ、毎週交流することで児童の意欲継続と学級の問題解決への意識を高めることができたことの4点があげら

れた。この4点の背かを取り入れることで、より効果的なクラスミーティングの実践ができると考えられる。

課題としては、新しい取り組みを行ったので話し合い活動に時間がかかってしまうことである。児童が慣れるまで議題によっては特別活動の時間を活用して話し合いを行うなどの工夫も必要であると考えられる。また、児童が書いたコメントなどを「6年1組がんばり宣言」として毎回掲示し教師もコメントを記入することを意欲継続と友達のがんばりを知るために行っているが教師の負担が少し多くなっていると考えられる。TAとしてクラスミーティングを行う上では行いやすいが、担任を持った時は係を作って児童の協力を得るようにするなどの工夫も必要になると考える。

9 おわりに

本研究では、A小学校とB小学校での2つの実践を通して、児童たちの学級への愛着や社会的な問題解決力を高めることができたと考えられる。今後は、より効果的なものにするために、残された課題の改善とより端的に児童だけで話し合いが行うことができるようにしたい。また、クラスミーティングで話し合うことに対する意欲向上のためにも、全員遊びを考えるなどの児童が楽しいと感じる話し合いの時間にしてもよいと考える。さらに、数値が伸び悩んでいて、なかなか取り組むことができない児童に対しては、教育相談などを行い、肯定的な行動ができるよう支援していきたい。

10 主要参考文献

- 全国連合小学校長会 2006 「学級経営の諸問題に関する現状と具体的対応策の調査」
- 文部科学省 2008 小学校学習指導要領解説特別活動編 日本文教出版
- 柿谷正期 2011 選択理論を学校に クオリティ・スクールの実現に向けて ほんの森出版
- Jane Nelsen&HStephen Glenn, Lynn Lott 2000 「クラス会議で児童が変わるアドラー心理学でポジティブ学級づくり」 コスモスライブラリー
- 四日市市教育委員会教育支援課 2014 共同体感覚を育む「クラス会議」の活用に関する研究 研究調査報告第393集
- 須恵町立須恵第一小学校 2016 研究発表会要録 福岡県教育委員会 福岡県教育センター 2004 不登校の解消をめざして 今、学校に求められている3つの視点からのアプローチ